

介護老人保健施設しおん

症例概要 ご利用者 90代・女性 要介護 3

利用期間：H30年1月～現在入所中

傷病名：右尿管結石、腎盂腎炎、腹部圧迫骨折、膝痛、貧血、逆流性食道炎

経過：退院後介助量が増え、自宅での介護が困難な為入所

内 容

夫は農協の職員でご本人は専業主婦で1男1女をもうける。近隣の農家の方との交流があり楽しく暮らしてきたとの思いがある。長男夫婦と同居し、長女も近くに住んでいる。H24年4月に突然朝こたつから立てなくなり、腰前屈、円背強く腰痛あり自宅で過ごす事が多くなった。H30年1月熱発、腰痛、腎盂腎炎、尿管結石でS病院に入院。同月退院、しおん入所となる。

入所時から食事摂取量にはムラはあったが職員が声掛けし自力摂取していた。R4年6月より食事摂取量が落ち介助にて対応するも「食べません、いりません」と拒否が強くなりADL低下する。フロアへ離床するも覚醒状態も悪く、「起きたくないです」とベッドで休まれる事が増えた。ご本人に好きな食べ物を聞き取るも食事に関しては、反応薄くご家族から好きなものを確認し、好きな食べ物を持参して頂く。梅干しや海苔の佃煮等ご飯にあう物や栄養科より納豆を毎食出してもらうなど、対応する。少しずつ摂取量が増えてきたが以前のように自力摂取は見られず、食事に関しての意欲がない状態。娘様の面会時に「母がサイダー飲みたいって言ってたのですが持参していいですか?」とご本人との会話で娘様に話したと聞き、持参して頂き美味しそうに飲み干し「おいしい」と飲まれる。その後毎食サイダーを付け提供すると徐々に食への関心が見られ、自力での摂取も見られるようになった。7月より食事を完食される日もあり、食事量も増えた。食事だけでなく覚醒時間も増え、フロアでの時間も増えた。8月には「カレーが食べたいな」とお話しされ丁度カレーが出たときに美味しそうに召し上がっていた。食事摂取が出来るようになり9月にご家族の希望もあり一時帰宅が出来た。現在もムラはあるが自力での食事摂取で召し上がっている。食事が食べれるようになりADLが上がり、ご自宅で家族と過ごせた事をキラキラ介護賞とする